

男遊クラブ

健康な生活をいつまでも!!

9月19日（水曜日）

浪江町をめぐる



「男遊クラブ」の活動が4年目に入らる中で、メンバーさんから「支援者に自分たちが暮らした『まち』を見て欲しい」という声が上がりました。

そこで、参加者と支援者が浪江町を一緒にめぐる体験を通じて、避難体験をしていない支援者が参加者の避難体験を共感的に理解する機会として、また、参加者と支援者との関係性を深める機会とし、さらに、浪江町の復興状況を確認する機会として、浪江町をめぐるプログラムを企画しました。



浜の料理に「やっぱり、おいしいね！」。

地元でお店を再開された、食事処「いふ」さんで昼食。
「野球の打ち上げでよく利用させてもらってたんだ」

何と、運転を再開した常磐線の電車が、浪江駅に入ってきました!!



「大平山霊園」にて



「請戸漁港 展望台」にて「まち」方面を望む



「「まち・なみ・まるしえ」から
「浪江町役場」へ



車中からの景色

避難先で始まった「男遊クラブ」を避難元地域と行き来しつつ開催できたら、という支援者としての希望が、このような形で実現できました。

車中では「戦争は嫌だ。地震も嫌だが、原発はもっと嫌だ。」「地震の時、あの中に居た。原発が危ない、と5～6回避難場所を変えさせられ、どんどん奥へ避難した。」と当時の体験が語られていました。大平山霊園・慰霊碑前では、亡くなった親類、縁者の名前を前に、その方がどのような方だったか、どのような状況で亡くなられたかをメンバーから伺いました。

また、メンバーの中には、帰還困難区域に自宅があるため、故郷への足が遠のき、2年ぶりの帰還だったという方がいらっしゃいました。「自分で運転して行き来する時には見られなかった故郷の風景が見えた」という方も。避難先で出会った男遊クラブのメンバーとともに「まち」をめぐったことも、いつもと違った故郷にしたのではないのでしょうか。